



第18回キッズデザイン賞 ポラスグループから20点が受賞

ポラスグループ

ポラスグループ(本社:埼玉県越谷市、代表:中内晃次郎)の各社が開発した以下の20点が、2024年度の「第18回キッズデザイン賞」を受賞しました。特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催するキッズデザイン賞は、「子どもたちが安全に暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・サービス・空間・活動・研究の中から優れた作品を選び、広く社会に発信していくため、2007年に創設されました。(https://kidsdesignaward.jp/)

ポラスグループの受賞は6年連続となります。

	<p>〈子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門〉株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部 「—OKUNIWA— 敷地の裏側をシェアする3種の「奥庭」のあるコミュニティ」 未利用地化しやすい境界部を共有の「奥庭」に転換 シェアするみんなの庭へ</p>
	<p>〈子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門〉株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部 「白岡みちニワPROJECT —つどう庭の街区—」 3つのフットパスと広場が繋ぐ緩やかなコミュニティの小さな村</p>
	<p>〈子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門〉株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部 「フレイベスト志木 FOREST SCENE」 花の小路と緑の公園、2つの子供の遊び場がある24邸の街</p>
	<p>〈子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門〉株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部 「愉KAIな庭を楽しむまち」 K(腰掛け)、A(集まり)、I(一緒に見(守)る・食べる)機能がある「愉KAIな庭」のある分譲地</p>
	<p>〈子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門〉株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部 「Yoridokoro上尾 こどもの自主性を育む中2階の住まい」 個室を与える前、幼児期の子どもの居場所としてスキップフロアを活用</p>
	<p>〈子どもたちを産み育てやすいデザイン部門〉株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部 「ベルフォート桶川 地域を繋ぐ路地のあるまち」 路地がコミュニティをつなぎ、住宅デザインには地域の専門家の知見を反映</p>
	<p>〈子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門〉株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部 「緑景-ENKEI-のまち 戸塚安行」 「ニワコウジ」を中心に緑をつなぎ、多様な住まい方を受け入れる全9邸の街</p>
	<p>〈子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門〉株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部設計二部 「共存の通り庭のある暮らし REASON船橋・三咲 Bright Scene」 緑を身近にするグリーンスポットとして、隣接2戸が一体となって魅せる通り庭をデザイン</p>
	<p>〈子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門〉株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部設計二部 「SNSとリアルな『農』体験で富山生産者とつながる食育『きときと未来プロジェクト』」 SNSで「農」を日常的に取り入れ地域同士のコミュニティも育む新たな食育提案</p>



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞中央グリーン開発株式会社

『ステイパス』のある風景

住民同士の交流を促進し、連続する緑の街並みを楽しみ、心地良い住環境の創出



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞中央グリーン開発株式会社

「自治会館、公園、河川敷を合わせた『まちのリビング』みずべのアトリエ」

子ども達を「地域で見守り育む」多世代交流空間を創出



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞中央グリーン開発株式会社

「未来輪区～共助と共生を育む街～」

暮らしに防災を取り込み、共助を育み、環境と共生する街づくり



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ポラスガーデンヒルズ株式会社

「和奏の郷 縁側テラスのある暮らし」

温故知新 縁側テラスがつくるスモールコミュニティから見守る子育て



＜子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門＞ポラスマイホームプラザ株式会社

「室内環境の快適化と省エネを両立させたAI型全館空調」

子どもだけの在宅時も自動の空調管理で熱中症リスクを軽減



＜子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門＞ポラスマイホームプラザ株式会社

「安全と交流を生み出す「こもれびテラス」がある街-育実(はぐくみ)の丘ふじみ野」

安全を優先に考えた区画の工夫と地役権設定により安全と交流を創出



＜子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門＞ポラスマイホームプラザ株式会社

「PROMENADE～曲がる街並み～」

散策路のような、安全を優先に考えた区画の工夫と交流の創出



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部 マンションDv

「子どもの自立をはぐくむ住まい」

毎日の暮らしの中で成功体験を重ね、自己肯定感を高める住まい



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部 マンションDv

「変身ラウンジ」

利用率の低いマンションのラウンジを可変式キッズコーナーとして有効活用



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞グローバルホーム株式会社

『おかえりヌック』のある家

「ただいま」「おかえり」あいさつで育まれる親子の絆と安心感



＜子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門＞グローバルホーム株式会社

「子どもたちが集うコミュニティハウス」

自宅内に広がる交流空間で地域全体が関わる子育てを実現

本件に関するお問い合わせ先

ポラスグループ ポラス株式会社 コミュニケーション部 広報課

TEL:048-989-9151

—OKUNIWA— 敷地の裏側をシェアする3種の「奥庭」のあるコミュニティ

中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

一般的な分譲住宅地では未利用地化しやすい各住戸の敷地境界部を、本プロジェクトでは区割と配棟の工夫で敷地の奥に設けた余白を各住戸がシェアする3つの風景が異なる奥庭「OKUNIWA」とし、有用な空間として昇華させました。安全性や環境面において外遊びがしづらい現代、このプロジェクトではそれぞれの「OKUNIWA」を小径で繋ぎ、公道に出ることなく街区内の行き来を可能にすることで、子ども達が車の往来を気にすることなく、緑とかかわりながら遊べる空間としました。各住戸の区分を明示するフェンスやブロックを設けず、コミュニティとしての一体感を感じられる環境としています。



白岡みちニワPROJECT 一つどう庭の街区—

中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

3棟からなる分譲住宅で、各戸が敷地の一部を拠出し合うことで3つのフットパス「みち」と、広場「ニワ」を創出しました。各住戸の玄関アプローチはフットパス側に設け、玄関から直接道路へ出ない構造とし、小さなお子さんのいる家庭も安心できる設計にしました。フットパスが交わる街区の中心は石畳の広場とし、広場を囲むように住民が腰を掛けて交流できるコミュニティスペースを創出。自然なコミュニティを築ける「小さな村」のような環境としました。植栽には常緑樹のほか、果樹・ハーブ類を配植し、緑を中心とした交流や子どもの食育にもつながります。



フレーベスト志木 FOREST SCENE

中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

全24棟の大型分譲住宅地。東西を既存道路に挟まれた立地条件における通常の配棟プランでは、東側・西側の住民が交わる機会が少なく、コミュニティの一体感が生まれにくいものになってしまいます。本プロジェクトでは、西側道路に面した住戸に小路を隣接させ、東側街区への往来を実現しました。小路はインターロッキング舗装の街区内道路へと至り、街区内道にはベンチや木陰を設け、住民同士の交流の場や子ども達が遊べる公園のような空間としてデザイン。車通りの多い既存道路へ出なくても安全な環境で遊べるよう設計しました。



愉KAIな庭を楽しむまち

当地は交通量の多い道路に隣接し、また周囲に公園がなく、子ども達が気軽に遊べる場所を内包することを考えて設計した分譲住宅地です。建物・車庫・アプローチ配置を工夫し、街の中心に隙間を膨らませつつ、複数方向から動線が交わる様にして、そこに中庭と成得る空間を形成。隣地境界に配慮した気楽な近所付き合いを目標に、緩い仕切を兼ねたフラワーベンチ、食べられる草木を配し、K(腰掛け)、A(集まり)、I(一緒に見(守)る・食べる)機能がある「愉KAIな庭」としました。ダイニング・キッチンの配置も庭を基点として決定し、内から外へ自然と足が向く「連続体験化」を図っています。

中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部



Yoridokoro上尾 こどもの自主性を育む中2階の住まい

中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

スキップフロアの下部が単なる収納スペースになりがちのところ、子どものためのスペースとしては有効に活用できることに着目し、幼児期から自分用のスペースを持たせつつ、親の姿を見て学ぶことのできるゾーニング計画としました。子供が二人の場合、勉強に集中したい長子を個室に追いやることなく、スキップフロア上部(6才~ゾーン)を勉強スペースとし、スキップフロア下部(3~5才ゾーン)では次子が気ままに遊び、かつ親はそれぞれの子とも同一空間で過ごせます。またスキップフロア下部は土間収納から玄関へと通じており、朝夕の身支度・片付けが自然と身につく子ども用のおでかけ動線としました。



ベルフォート桶川 地域を繋ぐ路地のあるまち

中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

全14棟の間を縫うように四方に広がる路地と、路地の交差点には街のコアとなる広場を設け、建物・路地・庭を一体化し、住空間を各住戸のみで完結しないデザインとしました。地域で活躍する乳幼児知育アドバイザー・キッズ食育トレーナー・農家の方とともに各棟の間取りとゾーニングを計画し、自然に触れて食育にもなる家庭菜園や、玄関そばには手洗いカウンターやキッズストレージを取り入れ、帰宅後の手洗いや身支度・片付けを習慣化できるように子どもの動線を配慮しています。路地沿道の外構・子どもの習慣化を促す動線・空間計画を通じてワークショッププログラムを構築し分譲地内だけでは完結しない地域に開いたコミュニティづくりを目指しました。



縁景-ENKEI-のまち 戸塚安行

中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

子ども達が成長するまで長期にわたって居心地よく住めるために、多様性を受け入れられる分譲住宅地としてデザインしました。各戸の内部はLDKとその続き間を「マルチルーム・ステージリビング・可変の間」の3つのプランを、また外部への解放感の度合いが異なる3つのテラスを組み合わせた全9棟。多様な感性・住まい方を受容する住宅地です。庭と道の機能を持つ「ニワコウジ」はコミュニティの中心となります。敷地境界を曖昧にして街区の一体感を演出するため、ニワコウジや、共有地と専有地の境界に様々な円のモチーフを配置。「円」がある風景が「縁」を取り持つ街としてデザインされています。



共存の通り庭のある暮らし REASON船橋・三咲 Bright Scene

中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部

南道路に面して横並びに連続する分譲住宅地です。通常の配棟プランでは、日当たりを確保するため南側を大きくし、道路側からの景観は各戸が隙間なく並び、壁とカーブスペースのみの単調なものになることが多いところ、本物件では互いに隣り合う敷地境界側に、シームレスにデザインされた通り庭を設けることで建物が連続する単調な景観となることを回避しました。住宅の間に緑が入り込み、豊かな陽光と自然のあふれる街並みへと変化し、単調で広だけの庭から、通路としての通り庭やポタジェなど庭の意味合いを持たせることで庭での活動が広がり、自然に触れ合うことが少ない現代の子ども達に、緑を身近できる環境となっています。



SNSとリアルな「農」体験で富山生産者とつながる食育「きときと未来プロジェクト」

中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部

SNSなどのソーシャルメディアとリアルな体験を組み合わせ、分譲地住人同士だけでなく課題を抱える富山県生産者と「農」を通してつながることで、生産者との交流を「日常」に組み入れ、かつ自邸の家庭菜園で野菜を育てる体験を通して「人」「モノ」「地域」のつながりを知る新たな食育提案。富山県生産者と直接つながりその生産背景や想いを知ることで、人や食、農のつながりが生まれ、地域と地域がつながることでフードロス等の社会課題や地方農業が抱える課題について身近なものとして捉える機会につなげ、家族だけでなく分譲地の住人同士で共有することで、分譲地全体のコミュニティ形成につなげる取り組みです。



「ステイパス」のある風景

中央グリーン開発

東南西三方を道路に囲まれた全15棟の分譲地です。通常の配棟プランでは、アプローチを道路に向けて計画しますが、建物同士が背を向き、動線が分断され、住民間同士の自然なコミュニティが生まれにくくなります。また2台カースペースを優先することが多く、緑地帯の確保も難しくなってしまいます。そこで、本物件では各棟の間に、通行路としてだけでなく「滞在+小路」の役割を持つステイパスを設け、各棟のアプローチはステイパスへ接続させました。住民が動線を共有し、交流を育めるよう、ステイパスには四季折々の植栽を配置し、気軽に腰掛けられるベンチを設けました。また、居室やデッキなどの中間領域をステイパスに面して設置することで、住民同士の自然な交流が生まれやすい環境としました。子ども達は、車を気にせず、大人に見守られながら走り回ることができます。



自治会館、公園、河川敷を合わせた「まちのリビング」みずべのアトリエ

中央グリーン開発

地域社会の結びつきの希薄化により、子育て世代が孤立を感じやすくなっている中、新規分譲地と共につくられた自治会館と公園。地域資源である河川敷を含めて「まちのリビング」として地域に開き、多世代のゆるやかなつながりが自然に育まれるコミュニティ拠点です。地域の大人が子ども達を見守る先でお母さんたちがお喋りを楽しんでいたり、大学生が子ども達の学習支援をしていたり。子ども達を「地域で見守り育む」風景が生まれています。お年寄りや大学生とのふれあいや季節の催しを通じた体験は、子ども達にとって学びと成長の場となります。



未来輪区～共助と共生を育む街～

中央グリーン開発

シェアサイクルやコミュニティファームのある住民交流の拠点となるコミュニティスペースに、救急グッズなどの入った収納ベンチや井戸を設置。各住戸や公園にも雨水タンクやかまどベンチを設けるなど災害に強い街を意識してデザインされた分譲住宅です。子どもから大人まで自助と共生の意識を学ぶための防災関連のワークショップを開催することで共助の関係性を育みます。また、地球温暖化など自然災害とは切り離せない環境問題についても、家づくりの専門家として真剣に考えて、リサイクル材を用いた壁紙や国産木材を取り入れた環境に優しい住まいとし、未来を担う子ども達にも環境問題への関心を高めてもらうものとなっています。



和奏の郷 縁側テラスのある暮らし

ポラスガーデンヒルズ

昔、日本でよく見られた「縁側」の団らん風景を現代的に見直し、近所の人と気軽に話せるスモールコミュニティを紡ぐ場所として取り入れた分譲住宅地です。道路に面して縁側を配置することで、屋外で遊ぶ子ども達を大人が縁側テラスから見守ったり、縁側が子ども達の遊び場になったりと幅広い活用が期待できます。さらに、瓦屋根の縁側テラスは夏の直射日光を避けて風を招き入れることで、近年の猛暑を和らげる効果があります。「縁側」と現代の遮熱性の高い瓦を使用することで、時代にあったパッシブデザインとしました。



室内環境の快適化と省エネを両立させたAI型全館空調

ポラスマイホームプラザ

昨今、全館空調が採用される住宅が増加していますが、居住者が適切な換気や冷暖房を行わないことによるリスクもわかってきました。症状を自覚しづらい子どもやお年寄りの熱中症や急激な温度変化により引き起こされるヒートショック等のリスクです。これらのリスクに対応する、AIによる適切な冷暖房管理を可能とする住宅の提案です。住宅内の温湿度センサーがスマートホームシステムと連動し、リスクの度合いに応じて、自動で窓の開閉や冷暖房の起動を行います。外出先から遠隔で冷暖房を起動させて在宅時の室温を最適化させることもでき、試算では冷暖房費を抑えることが可能となります。



安全と交流を生み出す「こもれびテラス」がある街-育実(はぐくみ)の丘ふじみ野

ポラスマイホームプラザ

南側は交通量の多い道路、北側は比較的安全な住宅街の市道に面した敷地に計画した5棟の分譲地です。安全を優先に考え、全棟のアクセスを北側道路につなぎました。誰もが利用できるように地役権を設定した60cm幅の通行用地を各棟から延ばして一カ所に束ねることで、駐車スペースと併せて8m四方の広場空間「こもれびテラス」を創出し、安全で広がりある空間を確保しました。「こもれびテラス」には名称の通り樹々を植え、子どもたちが遊べるデザインを施すのと併せて、親が落ち着いて見守れるようベンチを設けました。近隣住戸にも日当たりと景観を共有し、住民同士のコミュニティ醸成が促進される分譲地です。



PROMENADE ～曲がる街並み～

ポラスマイホームプラザ

宅地開発では敷地面積や形状は効率が優先され、道路は直角に曲がり、視線が抜けない閉塞感のある街並みになることがしばしばあります。本物件では、歩行者目線で歩きながら景色が徐々にうつり変わるPROMENADE(散策路)のような街並みを目指し、新設する道路を緩やかに曲げ、フットパスにより既存道路と繋げました。自然を意識し、石や下草、樹木を植えた塀のないオープン外構とし、ベンチを設けて景色を楽しむ工夫を施しました。外壁を白で統一したことで、季節の移ろいを感じられる明るい街並みとなりました。今後年を重ね、四季折々の緑が生い茂り、住まい手と共に成長する里山の風景ができることを期待しています。



子どもの自立をはぐくむ住まい

幼い頃から自己肯定感を高め自立心を刺激するため、子どもが住まいの中で「できる」を増やす工夫を組み込んだ集合住宅。親に頼ることなく「子ども自身が率先してできる」仕組みにこだわり、毎日の暮らしの中で成功体験を積み重ねることができます。子どもの安心・安全への工夫も施すことで、安心して「できる」を伸ばしていく住まいです。自分でできる・お片付け・親子の時間を紐づけ、自己肯定感を高めると共に、危ないを減らす仕組みとして、「届かない錠」「角丸仕上げ」「まもるんスペース」なども設け、安心して「できる」を伸ばします。

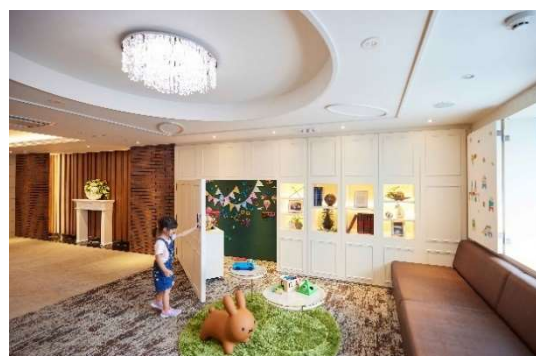
中央住宅 マインドスクエア事業部 マンションDv



変身ラウンジ

ラウンジとしてもキッズコーナーとしても機能する中規模集合住宅のフレキシブルな共用空間のデザイン。用途に応じて簡単に可変できる「変身ラウンジ」は、1つの空間に2つの機能が融合され、短い時間のサイクルだけでなくライフステージの変化にも対応することができます。多様な居住者が使用でき、利用率も向上することでコミュニティ醸成に寄与します。子育て期間後には本来のラウンジとして、短期的にも長期的にも有用なスペースとして活用可能な空間です。

中央住宅 マインドスクエア事業部 マンションDv



「おかえりヌック」のある家

グローバルホーム

コミュニケーション能力が重視される現代において、思春期に突入する小学校4年生前後を皮切りに、親子間のコミュニケーションが減少していると感じる人が多いという調査結果があります。この問題を解消するために、大きな吹き抜けでDK・キッズスペース・バルコニーを一体化したリビングと玄関をつなぐ「おかえりヌック」を設計しました。このヌックは、子供たちが遊んだり、大人がくつろげる場所で、家族が程よい距離感で団らんでできる空間です。特に「ただいま」「おかえり」といった日本特有のあいさつを重視し、帰宅時のあいさつが自然に行えるように設計されています。ヌック越しにリビングやキッチン、2階のスペースまで見通せるため、家族全員が安心感を得られ、家庭の絆を深めることを目指しました。



子どもたちが集うコミュニティハウス

グローバルホーム

核家族化や地域との関係の希薄化から、家庭の教育力の低下が指摘され、地域全体による子育てや、心の成長をもたらす多様な体験を身近にできる場所が求められています。本物件では、そうした場所を地域共有のコミュニティ施設としてつくるのではなく、自宅の中に設けようと意図したものです。玄関とリビングの中間領域に設けた外から見えるスタディコーナや、吹き抜けを通してつながる2階にはライブラリースペース、家の外には家庭菜園があり、自然にも触れ合えるなど、1つひとつの空間を大きくしすぎず、多様な交流スペースを設けつつ、居住部も区画して住まいとしての快適性も確保しています。建物は高断熱仕様で、無垢の床や漆喰など自然素材を使用。さらに、太陽光パネルを搭載した環境に優しい住まいです。

